

ここが聞きたい!!

4名が登壇

橘斎場の機能の充実を！

安本貞敏 議員

問 現在、葬儀は、自宅や自治会館等で行われているが、高齢化が進みお年寄りの独り住まいが多く、次第に難しくなっている。大島斎場同様、橘斎場にも是非、葬儀場の増設を望む。



答（町長）橘斎場は平成6年11月から供用を始め現在に至っている。近年、近所のコミュニティ組織の高齢化による住家での葬儀の援助困難や、住民の生活様式や居住する住宅の形態の変化等により、住家での葬儀が困難な状況になりつつある。今後にお

いても通夜、葬儀が増えていくものと思うが、今しばらく検討の時間を頂きたい。



橘 斎 場

問 町道に架かる老朽橋の強度検査は必要なのか。

答（町長）本町の橋台帳では85橋の管理を行っている。町政負担が集中しないよう計画的に工事を実施する予定。

問 河川内に生えている葦の処理に良い方法はないのか。

答（町長）町としては小規模施設事業の補助金で対応して頂きたい。なお県が管理するものについては県に強く要望していく。

待たれる海底送水！

平野和生 議員

問 町内4つの離島の渇水対策を一昨年の6月議会で質問をした所、浮島以外の三島は枯渇する心配はないという事であったが、浮島においては現在、枯渇の危機に



あるとの事で、すでに大島本島からの海上輸送も実行段階に入っているようであるが、生活用水の海上輸送がいつまで続くのか、又長期展望に立ってあらたな水源を探すのか、海底送水も含めての考えを問う。

答（町長）浮島地区に於いては、毎年の事ながら、夏場の盆前後の使用量が通常の倍

にふくれあがり、島内の自己水源7ヶ所をフル稼働して乗り越えてきたが、今年はから梅雨に続き、真夏の少雨がひびき、現在は生活用水を海上輸送するまでに枯渇してきたと認識している。将来的には、海底送水管による浮島への送水を考えており、各種補助事業を検討している。

答（部長）海上輸送は、約90日間を想定していて、枯渇の心配がなくなればその時点で海上輸送は停止する。現在の施設の維持管理に万全を期し、新たな水源の確保については、今後の検討課題としたい。島民の皆様のご理解をお願いしたい。



臨時貯水タンク